うぉーみんぐ

NO.35 新春

京都府地球温暖化防止
活動推進センター通信

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。
実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！

特集 今こそ、再生可能エネルギー普及
―電力買取制度下での地域・市民の役割―

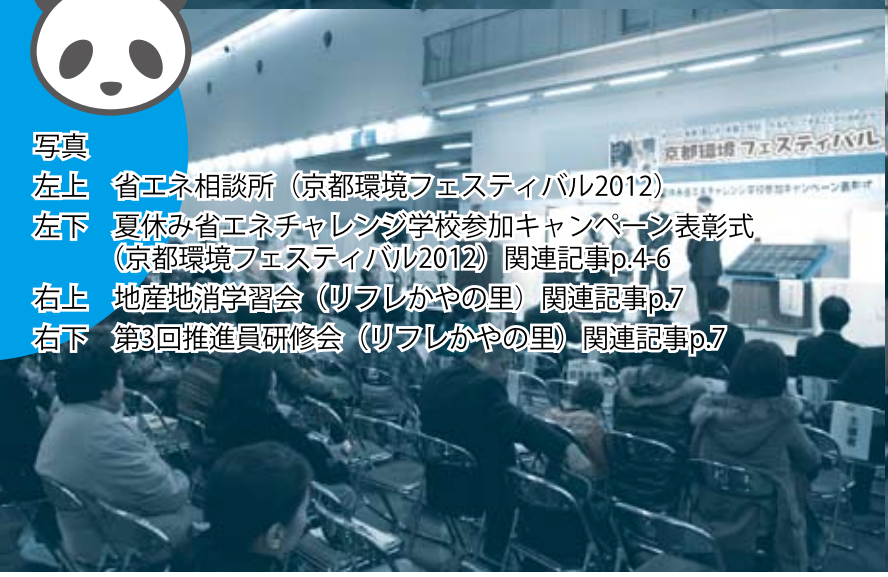


写真
左上　省エネ相談所（京都環境フェスティバル2012）
左下　夏休み省エネチャレンジ学校参加キャンペーン表彰式
（京都環境フェスティバル2012）関連記事p.4-6
右上　地産地消学習会（リフレかやの里）関連記事p.7
右下　第3回推進員研修会（リフレかやの里）関連記事p.7

京都府地球温暖化防止活動推進センター
Kyoto Center for Climate Actions

夏休み省エネチャレンジ2012 表彰式を開催しました

活動レポート

リフレかやの里で地産地消学習会
第2・3回推進員研修を実施
京都環境フェスティバル2012に出展しました（京都パルスプラザ）

お知らせ

京都府長岡京市立神足小学校・京都炭素貯留運営委員会
低炭素杯2013への出場が決定しました

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人　京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

特集　今こそ、再生可能エネルギー普及 -電力買取制度下での地域・市民の役割-

平成24年度第2回の温暖化防止活動推進員研修では、再生可能エネルギーによる電力の買取価格を検討する政府の委員会で委員を務めておられる和田武氏（日本環境学会会長）をお招きし、表題の演題で講演をしていただきました。
その内容の一部を抜粋してご紹介いたします。

なぜ再生可能エネルギーなのか

本来、エネルギー問題や食料問題は最も重要な政策課題ですが、これまでは、ほとんど国民的議論無しに進められてきました。しかし、東日本大震災以降、日本でもようやくエネルギー問題に関する国民的関心が高まっています。再生可能エネルギーをどうするのか、省エネをどうするのか、原子力発電所をどうするのか、これらは一体の関係にあります。

枯渇に向かいコストが上がる化石燃料も、大変なリスクを抱え放射性廃棄物というツケを後世に残す原子力発電も、持続可能で無いことは明らかです。やはり、省エネルギーと再生可能エネルギー中心の社会をつくらなければなりません。

再生可能エネルギーの特徴

化石燃料は、高い密度で集中して存在します。一方、再生可能エネルギーは、どこにでも存在しますが、密度は非常に低いのです。仮に家庭用の4kWほどの太陽光発電で原子力発電所1基分の発電量を賄おうと思えば、100万世帯ほどに設置する必要があります。他の再生可能エネルギーも、同様の特性があります。ですから、電力会社にお任せしておいて普及が進むものではありません。市民も会社も、みんなが担い手にならなければならないのです。

普及に不可欠、買取保証制度

太陽光発電の導入量は、2004年までは日本が世界のトップでした。しかし、今ではドイツには5倍の、イタリアにも3倍の差をつけられています。風力発電の導入量も、日本は非常に少ないです。なぜこのような状況が生まれたのか。そこには、政策の違いがあります。それは「再生可能エネルギー電力買取補償制度」の有無です。買取補償制度があり、設置者が必要経費を売電収入で補償され、損をしなければ、導入が飛躍的に進みます。

なお、買取の費用は、国民が薄く広く負担することになります。コストを広く薄く負担するという制度は、日本では、古くから原発に使われてきました。電源開発促進税が電気料金に上乗せされ、主に原発の立地地域交付金などに使われてきたのです。ここがまさに国の方向性の違いです。

市民が主役に地域が元気に

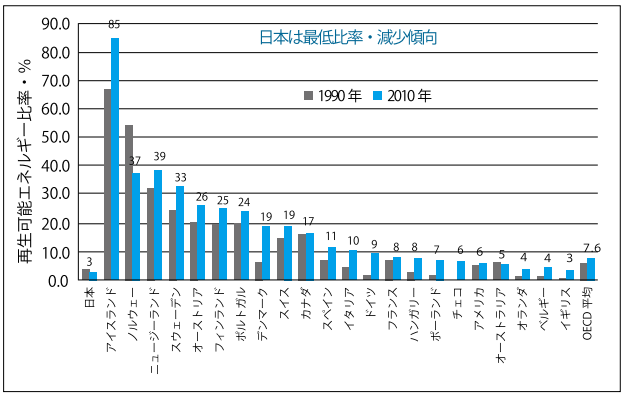
政策が整っていることは重要ですが、それだけでは充分ではありません。大切なのは、市民や地域が主役となることです。再生可能エネルギーの導入が地域を豊かにすることが重要で、そうすれば市民に受け入れられ、さらに普及が進むのです。

ドイツやデンマークの事例を紹介します。

[デンマーク]

デンマークでは、風力発電が大幅に普及しました。2010年には、年間の電力消費量の26%を風力発電で供給しています。風車の8割は、企業ではなく住民所有です。普及のための仕組み作りを働きかけてきた市民が、ずっと普及自体を担ってきたのです。企業が大規模風力発電所を開発する際も、出力の20%以上は地域住民の所有にすることが法で義務付けられています。地域住民が自分たちの地域に作るのですから、騒音などにより自分たちに迷惑をかける建て方などしません。だから、反対運動も少なく、スムーズに普及するのです。発電によって自分たちが儲かるのですからなおさらです。

先進国の一次エネルギー中の再生可能エネルギー比率



(IEA;Renewables Information 2011)

写真/講演の様子（推進員研修にて）

[ドイツ]

ドイツでは、2011年には電力の20%を再生可能エネルギーで供給できています。原発20基程度の発電量です。今後はさらに増加します。

例えば、デンマークとの国境にある村には、村民全員が出資した2.6MWの村民太陽光発電所があります。村民の中の技術者は、発電パネルが太陽を追尾する装置を作りました。これにより、通常に比べて30%多く発電することが可能です。この装置は、村内の工場で生産され、他地域に出荷されています。ノウハウを活かして、他地域へのアドバイスも行っています。430人という小さな村において、再生可能エネルギー関係で70人もの雇用が生まれ、過疎化が止まりつつあります。

干拓地のとある村には、32機の風車が立ち並んでいます。すべて村民出資で建てられたもので、村の消費電力の500倍の電力を生み出しています。きっかけは、環境のためではありませんでした。村は北海の近くにあり寒く、土地は痩せており、農業だけで生計を立てるには厳しい地域で、過疎化が進んでいました。なんとか村を立て直したいと44人が市民会社を作って風車を建て始め、その売電収入と金融機関からの借り入れで、次々と増やしてきたのです。こうなると、村に変化が起きます。村に留まり、農業と風車からの収入とで生計を立てる若者が増えてきたのです。

これらの村が特殊だと思わないでください。あちこちの村で、同様の変化が起こっているのです。たとえば、畜産農家が多い地域においては、し尿のメタン発酵による発電がおこなわれ、そこで出る液肥は有機農業の肥料として活用されて、農業収益も増えています。

日本はどうなる？ あなたはどうする？

これらの例でわかるように、地域が主役となって再生可能エネルギー普及に取り組むことで、地域が自立的に発展できます。

日本においても2012年7月に買取補償制度が動き始めたのは御承知の通りです。さて、日本でも、同様の取り組みが進んでいるでしょうか。大企業が大規模太陽光発電所を開発し、その利益を地域住民ではなく大企業だけが持って行ってしまう構図になっていないでしょうか。この構図が続けば、市民には負担感だけが広がり、制度自体が破たんしてしまいます。一方で、地域が主役となり地域の活性化につながる仕組みができれば、負担感は大幅に軽減でき、制度は受け入れられていきます。そして日本でも、少しずつではありますが、地域が主役となる先進事例が動き始めています。

私たち市民がどれだけ主体的に取り組めるか。日本の未来がここにかかっていると言っても過言ではありません。主権者としての自覚を高め、エネルギー生産を担っていく。その結果、社会に様々な好影響が産まれるのです。

あなたの周りに、再生可能エネルギーを利用できる可能性はありませんか。それをどうやったら地域が元気になる方法で実現できますか。ぜひ考え、行動を起こしてください。

最後にこの言葉で講演を締めくくりたいと思います。

「Think globally , act locally.　～地球のことを考え、地域で行動しよう～」
「Think of the future , act now.　～未来のことを考え、今行動しよう～」

写真
講演する和田武氏

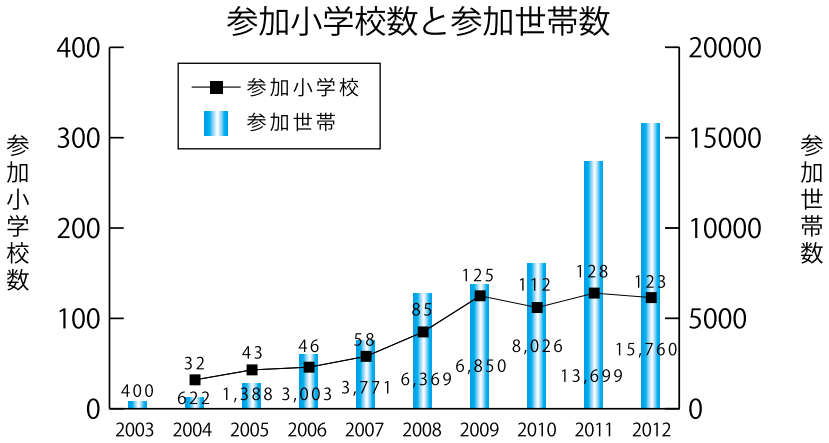
（まとめ：木原浩貴）

２０１２年１２月９日

夏休み省エネチャレンジ2012 表彰式を開催しました

京都府温暖化防止センターでは、2012年度も、夏休み省エネチャレンジ事業を実施しました。この事業は、小学生とその保護者に夏休みの1週間省エネを実践してもらう取り組みです。

たくさんの方のご協力の結果、2012年度も参加世帯数が増加し、15,760世帯もの家族に取組んでいただくことができました。



夏休み省エネチャレンジの実施にあたって、優秀な結果をおさめた小学校を表彰する「学校参加キャンペーン」も実施。12月9日に京都環境フェスティバル2012のステージイベントで表彰式を行いました。

キャンペーンにあたっては、大阪ガス株式会社、関西電力株式会社、株式会社京セラソーラーコーポレーション、ケニス株式会社より、学校での環境教育に活用できる教材をご提供いただき、表彰式において、京都府知事からの賞状とともに、特賞受賞校4校へ贈呈いたしました。

-優秀小学校-

●参加世帯数部門（参加世帯数第1位）

精華町立東光小学校（630世帯）

●参加児童率部門（参加児童率第1位）

綾部市立西八田小学校、綾部市立物部小学校、大山崎町立第二大山崎小学校、木津川市立恭仁小学校、木津川市立相楽小学校、京都市立静原小学校、相楽東部広域連合立笠置小学校、南丹市立摩気小学校、福知山市立菟原小学校、福知山市立佐賀小学校、与謝野町立桑飼小学校（五十音順）の計11校（参加児童率100%）

●二酸化炭素削減量部門（削減二酸化炭素量第1位･2位）

精華町立東光小学校（約1ｔ185kg［1,185kg］-1位）

福知山市立昭和小学校（約1ｔ110kg［1,110kg］-2位）

●平均得点部門（平均得点数第1位）

伊根町立伊根小学校（約90.8点）

※上記結果はすべて学校参加キャンペーン参加学年のみ

参加世帯数

精華町立東光小学校

ケニス賞
手回し発電機セット10 個組

精華町立東光小学校は、京都府南部の「けいはんな学研都市」にある小学校で、682名の児童が学んでいます。夏休み省エネチャレンジには、630人の児童が参加し、参加世帯数部門で第1位に輝きました。

校区には、古くからの農村地域と、科学技術を研究する地域の両方が存在します。子供たちは、里山を体験したり、企業の出前授業を受けたり、様々な方と関わりながら学んでいます。

校長先生の「東日本大震災を受け、私たちには何ができるでしょう」という問いかけに、児童と教員が一緒に考えて、ベルマークを集めて半分を被災地に送る活動も始めました。

夏休み省エネチャレンジに参加したのも「自分たち自身もエネルギー問題に取り組もう」という意見から。今年は宿題にしてみんなで取り組んだそうです。

社会と関わりながら、何ができるかを考えて実践する。そんな素敵な大人にすくすくと成長しています。

参加児童率

相楽東部広域連合立笠置小学校

関西電力賞
グリーンカーテンキット

相楽東部広域連合立笠置小学校は、悠々と流れる木津川に面したのどかな山里風景の中にあります。現在42名の児童のみなさんが学んでいます。

地域の方々から学ぶ地域学習が盛んです。夏休み省エネチャレンジへの参加は地元の温暖化防止活動推進員さんの勧めではじめ、今年で2年目。キャンペーン参加学年の5、6年生は全員が参加して、参加児童率100%を達成し初めての特賞受賞となりました。

学校のすぐ近くを流れる木津川をフィールドに、水にまつわる学習にも熱心です。

3、4年生では、水質調査や指標生物による水生生物調査を行い、5、6年生では笠置の産業でもあるカヌー体験や水辺をきれいに保つためのゴミ拾いも行っています。

豊かな環境の中で、自分の体験を通じて自然への学びを深めている笠置小学校のみなさん。今後もエネルギーの使い方を見つめ、生活の中でできる省エネの取り組みを継続していっていただきたいと思います。

特賞受賞校の学校紹介

>>> 二酸化炭素削減量

福知山市立昭和小学校

京セラ賞
太陽光発電体験キット

福知山市立昭和小学校は、福知山市の中央に位置し、現在634名のみなさんが学んでいます。

昨年の受賞に引き続き、二年連続の特賞受賞となりました。削減した二酸化炭素は、約1ｔ、30Lゴミ袋19,700個分にもなる計算です。

児童がエコについて学ぶことを目的に、一人でも多くの参加を呼びかけた結果、昨年を超える家族が参加してくれました。また、親子で協力して取り組むことで、家族のきずなが深まりました。

「色塗り」を通して、エコチャレンジの結果がひと目で分かるので、努力の成果が実感でき、児童はとても意欲的に取り組むことができたとお聞きしています。

毎年恒例のごみ拾い活動や、収穫した銀杏の売り上げを震災支援に寄付するボランティア活動も盛んです。学校でも家庭でも、ますます省エネに励んでいただきたいです。

>>> 平均得点

伊根町立伊根小学校

大阪ガス賞
燃料電池実験セット

伊根町立伊根小学校は、丹後半島の東に位置し、美しい海と豊かな山に囲まれた伊根町にあります。現在39名の児童のみなさんが学んでいます。

夏休み省エネチャレンジへの参加は今年で6年目。今年は平均90.8点で、昨年に引き続き2年連続の「平均得点部門」での特賞受賞となりました。

「日本一の給食」を目指した地産地消の給食を中心とした食育活動では、身近な海で、また身近な人の働きによって給食が出来上がることを体感し、感謝の気持ちが大きく育まれています。

授業の中でも、魚や海から学ぶことが多い伊根小学校のみなさん。省エネの工夫でも「暑いときは海で泳ぐ」というコメントがとても多くありました。

今年は食育に加えて、体育で「元気な体を育てる運動」への取り組みにも力を入れているそうです。
地域の恵みをしっかり吸収して、今後も環境への配慮のある暮らしをご家族と一緒に作っていってください。

活動レポート

京都府地球温暖化防止活動推進センターの主な活動を報告します

2012年10月13日
リフレかやの里で地産地消学習会

与謝野町内の「リフレかやの里」を会場に、『低炭素型　食の好循環づくり』事業の一環で学習会を開催しました。

この地域では、食べ物とバイオディーゼル燃料に関する好循環が生まれています（うぉーみんぐ前号参照）。学習会では、取組の担い手から事例を報告していただき、ネットワークがどんどん広がっていることが実感できました。

その後、シェフ、バイキングで使える地産地消メニューをご提案いただき、サンプルを試食させていただきました。舞鶴産のお魚などの食材が、ひと手間加えられおいしい料理になって登場しました。

学習会には、一般消費者にも参加していただきました。参加者からは、「循環が目に見える素晴らしい事業だ」「地元産食材は宿泊施設の魅力アップにつながる」などの感想をいただきました。

2012年10月・11月
第2・3回推進員研修を実施

第2回は「再生可能エネルギー普及」をテーマに、日本環境学会会長の和田武氏を講師としてお招きし、国内外の先進事例についてご報告いただきました。

第3回は「食の低炭素化」と「省エネ住宅」をテーマに開催しました。北部研修では、農家の方を講師にお招きして、米作りで使用する農機具にバイオディーゼル燃料を使用している事例を中心に、地産地消の取り組みについてご報告いただきました。南部研修では、省エネ住宅とはどのような家なのかについて簡単に勉強会を行うと同時に、省エネ住宅が実際に展示されている「平成の京町家モデル住宅展示場」の見学も行いました。

2012年12月8日・9日
京都環境フェスティバル2012に出展しました（京都パルスプラザ）

今年は、京都木材規格に関する展示、うちエコ診断・省エネ相談所ブース、夏休み省エネチャレンジの結果や特賞受賞校の紹介展示、そして省エネシール作成コーナーを設けました。

夏休み省エネチャレンジの展示は、フェスティバルに来場した児童やその保護者の目にとまり、「自分もチャレンジに取り組んだ」「となりの学校が優秀校になっていてすごい」などの声を聞くことができ、これからもより多くの小学校へ広がっていくよう工夫して呼びかけていきたいと思いました。

省エネ相談所へは、両日で177人もの方にご参加いただくことができました。

お知らせ
Information

2/16〜17
東京ビッグサイト

京都府長岡京市立神足小学校
京都炭素貯留運営委員会

低炭素杯2013への出場が決定しました

今年も、全国の魅力的な温暖化対策事例をコンテスト形式で共有・発信する「低炭素杯」が開催されます。京都府内からは、下記の2団体が見事に書類選考を通過し、本大会でプレゼンテーションを行うことが決定しました。

[地域活動部門]

■京都炭素貯留運営委員会
□「農地炭素貯留技術を用いた農作物のエコ・ブランド化と地域活性化」

[学生活動部門]

■京都府長岡京市立神足小学校
□「地域を繋げる体験型環境学習プログラム」

低炭素杯2013については、こちらをご覧ください。 **http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2013/**

-ご挨拶- 職員の吉川春菜が12月をもって退職いたしました

約6年間、京都府温暖化防止センターに務めさせていただきました。温暖化防止活動に取り組む中で、行政の方や企業の方等さまざまな立場の方とご一緒し、たくさんのことを勉強する機会をいただきました。当センターでは、学校への出前授業や夏休み省エネチャレンジを担当しておりましたので、温暖化防止活動推進員さんとの関わりも多く、様々な面でサポート、ご指導をいただきました。素晴らしい経験をすることができました。本当にありがとうございました。

これからもみなさまのますますのご活躍とご発展をお祈りしております。

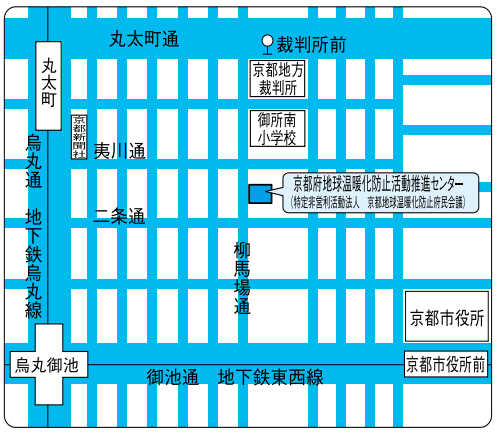
京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

（平成 25 年新春号　平成 25 年 1 月発行（年 4 回発行））

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
（特定非営利活動法人　京都地球温暖化防止府民会議）
理事長：郡嶌 孝　　運営委員長：浅岡 美恵
〒 604-0965　京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283 番 4
TEL：075-211-8895　FAX：075-211-8896
URL：http://www.kcfca.or.jp　E-mail：center@kcfca.or.jp

編集：木原浩貴　伊東真吾　川手光春　竹花由紀子　西澤浩美　渕上佑樹　吉川春菜

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
年度会費　正会員（個人）：2,000 円　正会員（団体）：3,000 円
準会員（個人）：2,000 円　準会員（団体）：3,000 円
賛助会員：10,000 円
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100％の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。